

## 令和6年度卒業証書授与式式辞

長く厳しい寒さの冬が過ぎ去り、暖かな日差しに春の訪れを感じつつ、恵みの雨となった今日の佳き日、柄沢同窓会長様、宮下PTA会長様のご臨席を賜り、令和6年度群馬県立榛名高等学校第77回卒業証書授与式を挙げていただけますことは、わたくしども榛名高校職員にとりまして大きな喜びでございます。心から御礼申し上げます。

ただ今、68名の卒業生一人一人に卒業証書を手渡しました。卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

卒業証書は、皆さんの努力の賜であり、汗と涙の結晶です。

しかし、この卒業証書は、自分一人の力で手にしたものではありません。陰になり日向になり、これまで皆さんを支え続けてくれた保護者や家族がいます。卒業生の皆さんには、感謝の気持ちをお世話になった方々へしっかりと伝えてほしいと思います。

また、保護者の皆様、お子さまのご卒業、誠におめでとうございます。保護者の皆様には、これまでの3年間、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。改めてお礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。皆さんは、榛名高校で過ごした3年間で、どのような力を身に付けましたか。

榛名高校は、チャレンジハイスクールを学校づくりの根幹にしています。皆さんは、様々な体験学習と学校行事にチャレンジしたり、様々な地元地域の活動に協力したり、みそあじ運動を実践したりして、生活力と人間力を磨きあげてきました。部活動やボランティア活動、就職試験、入学試験にもチャレンジして、なりたい自分を目指し、努力してきました。

日本は今、人生100年時代と言われていています。長い人生では、人生の主役は自分自身です。榛名高校で培ったチャレンジ精神を発揮して、これからもいろいろなことに挑戦してください。卒業後の次のステージでも目標を設定し、その目標に向かって最後まで諦めず、精一杯頑張って自己実現してください。

まずは、小さなチャレンジから始めましょう。たとえ小さなチャレンジでも、うまくいくと自信になります。たくさんの小さな成功体験を積み重ね、自分自身で大きな自信に育ててください。

「社会人基礎力」という考え方があります。「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱しました。「社会人基礎力」は、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の三つの能力から構成されています。

自分や周りの人にとって何が幸せか、自分の目で社会を見定め、「前に踏み出す力」で一步踏み出してチャレンジしましょう。チャレンジには、成功もあれば失敗もある。それがチャレンジです。成功したら大いに喜び、失敗したら大いに反省し、「考え抜く力」でじっくり考えて再チャレンジしてください。一人では太刀打ちできない大きな壁でも、仲間となら超えられます。コミュニケーションをしっかりととり、仲間と協働して「チームで

働く力」を発揮して壁を乗り越えてください。卒業後は「社会人基礎力」を磨くとともに、よりよい社会の実現を目指して各自が自分の責任を果たすことが求められます。

皆さんにハチドリ運動について紹介します。アマゾンの伝説で、森で火事が起きたとき極小のハチドリは、小さなくちばしで一生懸命水を運んで火を消そうとしました。それを見た他の動物たちが、「お前が運ぶ水で何ができるんだ」と馬鹿にしたそうです。すると、ハチドリは、「自分ができることをしている」と言いました。その伝説から、ハチドリのように小さな力でも、「自分にできることからやっ払いこう、そうすれば世界は変わる」というのがハチドリ運動です。

地球温暖化などの大きな課題も、自分ができる小さな一歩から変えていくことが大切です。皆さんもハチドリ運動で、社会を支える力になってほしいと思います。

卒業してしまえば「みそあじを心がけて」なんて言う人はいません。大切なことは何か、自分の頭で考えて、自分で判断して、行動しなければなりません。まさにこれまで榛名高校で実践してきた「気づき、考え、実行する」です。自分の力で幸せな人生を築いてください。

今ここに3年間の高校生活を終え、頼もしい人間へと成長した姿を見て、誇らしい気持ちでいっぱいになります。

皆さんの頑張りは、在校生にとって良いお手本であり、地元地域にとって良い励みになりました。皆さんの旅立ちをお祝いできることを心よりうれしく思います。

終わりに、歴史と伝統のある榛名高校を旅立つ皆さんが、次の目標に向かって着実に歩んでいくことを願い、式辞といたします。

令和7年3月3日

群馬県立榛名高等学校  
校長 天田 徹也